



ハルナイズムを継承、商品群は国内トップクラス 群馬の清らかな水を伝える「飲料プロデューサー」

ハルナビバレッジ 株式会社 代表取締役社長 青木 麻生氏

一滴の水の源から始まったハルナイズム。清涼飲料水の研究・開発から製造、販売までを手掛けるハルナビバレッジ(青木麻生社長)。創業25周年を迎え総売上高は250億円を突破。後発でありながら4000アイテムに上る商品群は国内トップクラスを誇る。群馬から生まれた清らかな水が、「飲む感動」、「美味しさ」、「喜び」、「新しさ」を伝え、次なる創成期の実現に向けて「飲料プロデューサー」の挑戦は続く。

創業者である青木清志氏(現・名誉会長)は、20代の頃に演劇の演出家を目指し、その後、商社勤務を経て独立。山あり谷ありの道を突き進む中、海外で水と運命の出会いを果たす。拠点探しに奔走し辿り着いたのが高崎の地だった。製造業という未知の世界ではあったものの、その道のスペシャリストとなる7人衆が産声を上げたばかりの同社を支えた。その時、青木氏は62歳。監督が役者を育てるように、現場のリーダーを育てる。これが後に語り継がれる演劇的経営の始まりでもあった。

飲料業界では最も後発だった同社の最大の強みとなったのが小型ペットボトルの設備投資だ。市場の動向を探り、それまで製造されていなかった500ミリの小型ペットボトルの生産体制をいち早く確立。以降、地元の金融機関である東和銀行の融資を得るなど、生産体制の拡充を図りながら経営理念に顧客志向を掲げ、創業から10年目には飲料メーカー

としての確固たる地位を築いた。

受託生産も軌道に乗り次なる変革期が訪れたのはM&Aによる、さらなる生産体制の拡大。ちょうどこのころ、青木氏の長男である青木麻生氏が現場経験を積み代表取締役社長に就任。青木社長は、かつて商社マンとして陰ながら父親にエールを送ってきた。当時、家業に入るといった意志はなかったが、国際的な食品展示会で父親が企業PRを行う姿を目にし、「私のこれまでの経験や人脈を生かしてみたい」と気持ちが固まった。時代の変化や競争が激化する中、顧客の行動の変革を的確に捉え、さらに新たなマーケットの動向やプライベートブランドの構築、パートナー企業との協業による商品開発など、しっかりとした道筋を描いた。

現在では、お茶やミネラルウォーター、スポーツドリンク、機能的飲料水など、多彩な商品の生産が可能になり海外にも進出。タイに拠点を設け、自社ブランドを展開した。また、ヨーロッパでは茶系飲料の開発・販売にも着手。健康志向をキーワードに販売網を拡大させている。

こうした成長のカギは、新しいことへの挑戦に加え、絶え間ない努力や継続した力を現場が持ち続け、今以上のブラッシュアップが現在に至ると自負。それがハルナイズムの継承だ。社内のビジネススクールは15年目に入り、累計の受講者は3万人弱。各種コース(経営者養成、リーダーシップ、プロフェッショナル、専門職、英語力アップなど)を設け、知識

を得て成長する喜びを体感している。今後のライフスタイルの多様化を見据え、賃金だけでなく仕事の面白さや働きやすい職場環境、福利厚生、ワークライフバランスなども組み合わせ「トータル・リワード」も構築した。

青木社長は飲料プロデューサーとしてナンバーワンを掲げ、「今後も社会に幅広く必要とされる飲料を生み出していくことが原動力。現状に満足するのではなく、お客様の満足と従業員の満足を両立させることで会社の発展につながっていく。3つのトライアングルを大切にしていきたい」と意欲をみせる。

永續企業としての発展を目指し、経済的価値と社会的価値を追求していく。創業時から変わらない経営理念のキーワードには、「顧客」が挙げられている。顧客は潜在的消費者と表現し、「顧客を創造することである」と想いは変わらない。2026年には創業30周年を迎える。「ハルナビジョン2026」の達成とステークホルダーから必要とされる企業体へ、歩みを止めず邁進を惜しまない。

ハルナビバレッジ 株式会社

東京本社：東京都中央区日本橋3-8-4
日本橋ざくら通りビル2F

☎03-3275-0191

群馬本社：群馬県高崎市足門町39-3

☎027-387-0101

☑<http://www.harunabev.co.jp>

資本金4億円 従業員グループ全体447名

【グループ会社】

ハルナプロデューズ 株式会社

HARUNA 株式会社